

科目名称：	現代社会と環境（ビジネス実務学科）	
担当者名：	楠部孝誠	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
今、地球の各地で起こっている環境問題について、なぜその問題が起こったのか、どのような被害が発生しているのか、今後どう向き合い、どう解決策を探っていくのか、について考えます。最初に網羅的に環境問題の特徴を学び、基礎的な理解を進めます。その後、環境問題の発生過程から見える現代社会の構造的な欠陥を理解し、持続可能な社会をどうつくっていくのかについてそれぞれの立場から考えていきます。		
授業の達成目標・到達目標		
①環境問題を知る・関心を持つ：各地で起こっている環境問題を知るとともに、それぞれの問題が私たちの生活と直接・間接に関係していることを理解する。②個々の環境問題の関係性を複合的に捉える：個々の環境問題の学びを通して、それぞれの環境問題が複雑に絡み合っていてリンクしていることを理解する。③考える力を身につける：環境問題を解決するためには、技術開発と同時に私たちのライフスタイルの変革を通じて社会を変えていくことが必要であることを理解し、一人ひとりができる環境保全活動について考え、実践に結びつける。		

基礎教育科目		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。		○
DP (2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP (3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP (1)	50		50		100
全学DP (2)					0
全学DP (3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容 1》	《経験年数 1》
	《内容 2》	《経験年数 2》
	《内容 3》	《経験年数 3》
	《内容 4》	《経験年数 4》
備考		
環境問題の解決には、個人個人の行動変容に加えて、社会変革のために何が求められているのかという大所高所からの視点を同時に意識して、授業に参加し、学習してください。		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
個々の環境・社会問題の理解	個々の環境・社会問題の構造を理解し、主体的に解説ができる	個々の環境・社会問題の原因と影響を理解し、説明ができる	個々の環境問題について理解できる	個々の環境問題について理解できない
複数視点からの環境・社会問題へのアプローチ	環境・社会問題を複数の視点から捉えて、解説できる	環境・社会問題がいくつかの視点で見ることができる	環境・社会問題がいくつかの視点があることを知る	環境・社会問題を単一視点からしか見れない
環境・社会問題間の相互関係性の把握	問題間の相互関連性を理解し、具体的に関係性や影響を解説できる	個々の問題が相互に関係していることを理解し、説明できる	個々の問題が相互に関係することを知っている	環境・社会問題が相互に関係していることを理解できない
問題解決に向けた思考	個人の行動変容から社会変革までの流れを具体的に解説ができる	個人の行動変容から社会変革への連動について説明ができる	個人の行動変容と社会変革の双方の必要性を知っている	問題解決に向けて個人の行動変容しか考えられない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 環境問題の概観 ～環境問題がなぜ起こるのか？～	シラバスを読み、講義の全体的な流れを理解しておくこと。	60分
第2回 大気に関わる環境問題 ～大気は汚れている？～	大気汚染について、学習した内容を復習しておくこと。	60分
第3回 水資源と水質汚濁 ～地球上で利用できる水は多くない!?～	水資源と水質に関する環境問題について、学習したことを復習しておくこと。	60分
第4回 生態多様性 ～生物多様性は重要なのか？～	身近な生物多様性の問題について、学習したとともに復習しておくこと。	60分
第5回 人口問題 ～少子高齢化と人口減少で何が起こるのか？～	少子高齢化による社会変化が自身に影響する点について考え、復習しておくこと。	60分
第6回 気候変動問題 ～地球温暖化問題にどう対応するのか？～	気候変動問題に世界各国がどのように取り組んでいるのかを復習しておくこと。	60分
第7回 化石資源とエネルギー問題 ～資源とは？エネルギーとは？～	化石資源の現状とエネルギー利用について復習をしておくこと。	60分
第8回 エネルギーの安定供給とリスク ～資源のない国のエネルギー問題	私たちの生活とエネルギー問題とがどのように関係しているのかを復習すること。	60分
第9回 海ごみとプラスチック問題 ～海はプラスチックごみで溢れている!?～	プラスチックごみに対する国内・国際的な取り組みについて復習しておくこと。	60分
第10回 廃棄物と循環型社会1 ～人はごみを出さずにはられない!!～	私たちの生活から排出されるごみの問題について復習しておくこと。	60分
第11回 廃棄物と循環型社会2 ～リサイクルすれば、全て解決する!?～	リデュース、リユースの重要性とリサイクルの現状について復習しておくこと。	60分
第12回 食料生産と食品ロス問題 ～生産された食料の多くが捨てられている？～	世界人口の増加と食料需要の関係を整理し、食品ロスについて復習しておくこと。	60分
第13回 環境問題に対する企業の取り組み ～企業はなぜ環境問題に取り組むのか？～	企業が環境問題についてどのように取り組んでいるのかを予習しておくこと。	60分
第14回 倫理的視点からの環境問題を考える ～環境問題をどうやって解決するのか!?～	環境問題解決に向けた個人の取り組みの必要性和限界について復習しておくこと。	60分
第15回 SDGsと今後の社会転換 ～持続可能な社会について考える～(ディスカッション)	SDGsの内容を復習し、持続可能な社会について自分の考えを整理しておくこと。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準
定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
講義内で行う小課題とレポート課題（50%）
課題に対してのフィードバック
各回の小課題については、翌回の講義で解説します。レポート課題は採点后、講評します。
教科書・参考書
毎回プリントを配付する。参考書は必要に応じて紹介する。